

米国金融政策（2024年6月FOMC）

政策金利を7会合連続で据え置き

2024年6月13日

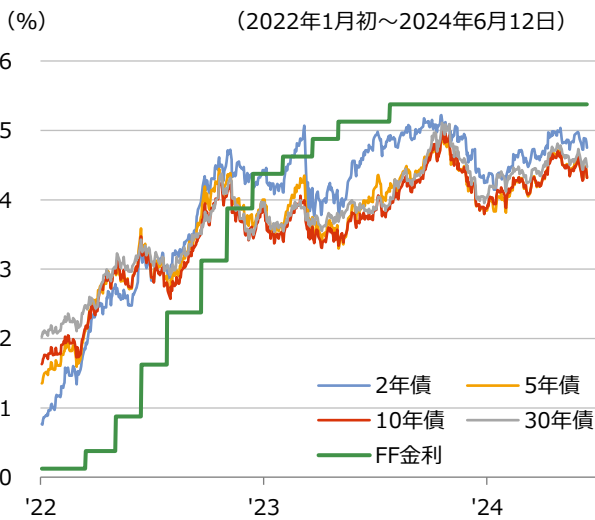
利下げ開始見通しは先送りも、CPI下振れの好感を相殺せず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は6月11日～12日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは7会合連続です。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額250億米ドル、MBS（住宅ローン担保証券）で月額350億米ドルとする方針を維持しました。

声明文に目立った変化はなかったものの、FOMC直前に発表された5月消費者物価指数（CPI）の下振れも踏まえ「2%インフレ目標に向けた緩慢な更なる進展」とし、前回の「2%インフレ目標に向けた更なる進展の欠如」から若干ながらも進捗感を示す形へと修正されました。注目のFOMC参加者のFF金利見通しは中央値で年内1回の利下げと、従来の年内3回の利下げから変更されました。他方、2025・26年の利下げ想定回数はともに増えており、将来的な利下げ軌道に大きな変化はないとも言えます。パウエルFRB議長は「インフレが持続的に2%に向かっているとの確信が強まるにはさらに良いデータが必要」とし、「確信が強まるまで目標レンジの引き下げは適切ではない」との慎重な見解を維持しました。

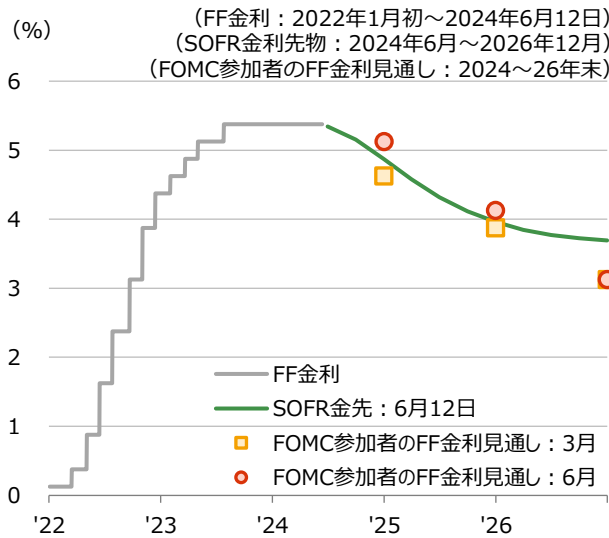
FOMCはタカ派・ハト派な内容が混在する発表内容でしたが、CPI下振れ後の金利低下を若干相殺するに留まりました。FOMC参加者の見通しとは対照的に、FF金利先物はFOMCを挟んで年内2回弱の利下げを引き続き織り込んでいます。利下げ開始時期を巡って、当面は物価指標を確認する展開となりそうです。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFR：担保付翌日物調達金利 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。